

おしえて!



?



# わん<sup>🐾</sup>にゃん通信

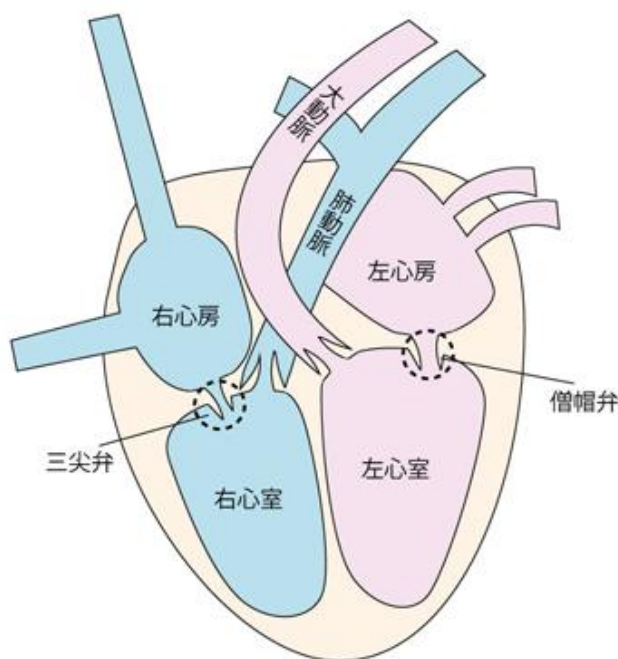


2019,05,20

いよいよ元号も令和に変わり、新たな時代が始まりましたね。

今回は、わんちゃんねこちゃんの心臓についてお話します。心臓は全身に血液を送り出す大切な臓器です。血液を通じて栄養や酸素を脳や他の諸臓器に供給するため、心臓の調子が悪くなるとその影響は全身に及びます。

まずは心臓の作りについて簡単にお話します。



## ○心室、心房

左右にそれぞれ1つずつある血液が入る部屋で、心筋が収縮することで全身に血液を送ります。

## ○僧帽弁

左心室と左心房の間にある弁です。

## ○三尖弁

右心室と右心房の間にある弁です。

## ○体循環

左心室→動脈系→全身→静脈系→右心房

## ○肺循環

右心室→肺動脈→肺→肺静脈→左心房

次に、わんちゃんやねこちゃんになりやすい心臓病についてお話します。

## ○フィラリア症

フィラリアは蚊が媒介する寄生虫が起こす病気です。わんちゃんもねこちゃんもかかります。フィラリアは右心房や肺動脈に寄生します。血液の流れが悪くなり、様々な症状を引き起こします。ごくまれに人も感染することもあります。

わんちゃんやねこちゃんはきちんと予防薬を飲むことで予防できます。ただし、もし感染して

いるのに気づかず予防薬を飲んでしまうと逆に毒になってしまう事もあるので診察を受けてから飲ませましょう。



### ○僧帽弁閉鎖不全症

僧帽弁がしっかりと閉じなくなり血液が逆流を起こしてしまいます。

初期に症状はほとんどありませんが、徐々に心雑音や空咳が出てきます。症状が進むにつれ咳がとてもしどくなり、疲れやすく散歩も嫌がります。肺水腫も引き起こしてしまうと、呼吸が異常に早くなり、舌が青紫に変色してしまいます(チアノーゼ)。

高齢な小型犬に多く、特にキャバリア、マルチーズ、シーズー、チワワなどに多いと言われています。決定的な予防法はありません。



### ○拡張型心筋症

心筋が薄く伸びてしまい、収縮力が弱くなり血液を全身に送りづらくなる病です。例えると、心筋が空気をぱんぱんにいれた風船のようにぺらぺらなってしまいます。

元気がなくなり、食欲も落ち、体重が減り運動を嫌がります。肺水腫を引き起こしたり、胸水や腹水が溜まってしまったりします。突然死もあります。

特にドーベルマン、グレートデン、ボクサー、セントバーナードなどの超大型犬、大型犬に多いとされています。スパニエル種も発症しやすいと言われています。

また、女の子よりも男の子に多いようです。遺伝的な要因も考えられますが、原因は分かっていません。



### ○肥大型心筋症

左心室の心筋が分厚くなってしまい血液を送りづらくなる病気です。筋肉が厚ければ力強く血液を送れるのではと思いますが、心臓自体の大きさは変わらないため血液の入るスペースが少なくなり心臓も収縮しづらくなってしまいます。バレンタインハートという特徴的な形に心臓が変形していきます。

初期は無症状なことが多いですが、重症化すると口を開けて呼吸したり(開口呼吸)、呼吸困難で下が青紫に変色したり(チアノーゼ)してしまいます。血栓ができやすいので、後肢の麻痺を引き起こしてしまう事もあります。

特にアメリカンショートヘアー、メインクーン、ペルシャなどのねこちゃんが発症しやすいと言われています。また、男の子のほうが多いようです。



心臓病を外科的に治療することもできますが、とても難しいと言われています。また、原因が分からないことが多いです。そのため、健康診断などを定期的におこない早期発見をすることがとても大切です。そして、きちんと処方されたお薬のみ、心臓の負担を少しでも減らして症状の悪化を防ぐことが大切です。



シンドウ動物病院

